

野鳥サークル

栗田 ノブエ (北川原)

平成13年まさきふれあい学園野鳥観察教室を平成14年3月に修了したメンバーは、せっかく顔見知りになったのだからと月2回自主サークルとして、北公民館談話室に集まることとしました。

活動内容は、ビデオを見ながら鳥の名前をテストしたり、バードウォッチングの近況報告をしたりしています。

また、双眼鏡と本を手に愛らしい野鳥の姿を求め、野山の大自然の中での観察も行います。鳴き声に耳を傾けた時の緊張感、木のテッペンで鳴いている「ホオジロ」や「オオルリ」を見つけた時の喜びは何とも言えません。

久しぶりにお城山に登り、声はすれども姿は見えず」

メジロかな、エナガかなと賑やかにさえずっている声を耳にし、頂上までたどりつき、お弁当を食べる時の楽しいこと。裏山でコゲラを見つけた時は、興奮し、釘付け状態になり、しばらくその様子を楽しませてもらいました。

また、内子町に行った時は、子どもたちの礼儀正しい挨拶、お店の方の素朴さ、そして心温まるもてなしに、バードウォッチングにも優るやすらぎを感じました。

野鳥に関して五十歩百歩の仲間ですが、これからも頑張っていこうと思います。



▲四季折々に野鳥の観察

心のバリアフリー

松前中学校 中島義人

先日、人権集会を開催しました。人権委員による「松前町のバリアフリー」についての発表、人権作文発表、そして三年生有志の合唱と全校で人権について考えることができた意義のある集会でした。

生徒の感想を紹介したいと思います。

「改めて人権について考え、思うことがたくさんありました。松前町も施設のバリアフリーが進んでいることがわかりました。でも、心のバリアフリーを私たちが進めていくことが、第一歩だと思いました。」

「松前町にもたくさんさんのバリアフリーの設備があることを知り、うれしかったです。でも私たち一人ひとりが障害をもつ人たちの気持ちを考えて行動しなければ、本当のバリアフリーにはならないと思います。私たちの行動が大切だと思っています。」

集会の最後に、昨年紅白歌合戦の大トリで歌われた「世界に一つだけの花」を全校生徒で大合唱しました。

『ぼくら人間は どうしてこ
うも比べたがる？ 一人一人
違うのに その中で 一番に
なりたがる？ 小さい花や大
きな花 一つとして同じもの
はないから No.1にならなく
てもいい もともと特別なオ
ンリーワン！』

「合唱は、とても大きな声で、
気持ちを込めて歌うことがで
きました。この歌の中に『No
1にならなくてもいい もと
もと特別なオンリーワン！』
とあるように、すべての人が
一人ひとり尊重され、生き生
きと活動できるような、すば
らしい町をつくっていきたく
と思います。」

今、「人権」は、世界で注目
されています。差別をなくす
ための制度、法律、施設など
の充実をしてみました。でも、
最も大切なのは、私たち一人
ひとりの心であり、行動なの
です。皆さんも「心のバリア
フリー」を進めていきませ
んか。

「世界に一つだけの花」/SMAP
作詞・作曲 横原敬之